はっちみつ

https://hacchi.jp

vol.39

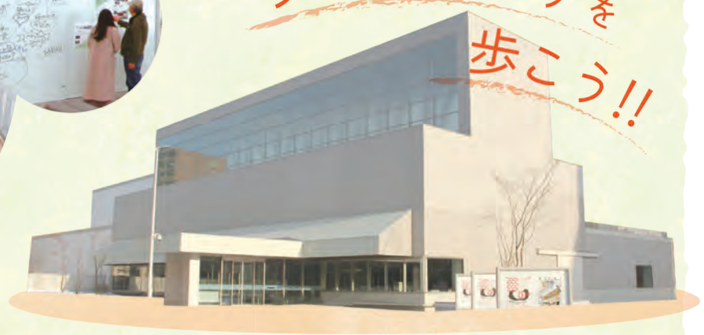
このまちがもっと、このまちらしく輝くためのソウゾウ開化…
「はっち」が贈る、おいしい情報。

美術館エリアを歩こう!!
八戸市美術館、八戸酒類株式会社、コミュニティ放送局BeFM、安藤昌益資料館、三浦哲郎ゆかりの地

2021年度アーティスト・イン・レジデンス公募プロジェクト
八戸の市文化にふれる旅・えんぶりえぼし、ゑぶりすり

えんぶりのある風景、未来を創る課題解決コラボプロジェクト、こどもはっち
えんぶりモチーフを探そう!、Café854×Cdm8事業・社会につながるコミュニティ「Drop in」事業、こどもはっち×ベントレポート

美術館エリアを歩こう!!



❶ 八戸市美術館

2021年11月にリニューアルオープンした八戸市美術館。アートを通した人・まちづくりをコンセプトに、アートファーマーの活躍を目指す新しいかたちの美術館です。建物の特徴の一つである「ジャイアントルーム」は可動棚やカーテンで区切ることで、用途に応じて空間に変化を生み出すことができます。大規模な展示に適したホワイトキューブのほか、映像作品に最適なブラックキューブや音響設備を備えたスタジオもあります。

□八戸市番町10-4
□TEL　0178-45-8338
□時間　10:00～19:00（入場は18:30まで）
□休館日　火曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始

新しい八戸市美術館の周辺には、ほかにも歴史的・文化的なスポットが！
美術館を見た後にお散歩はいかがですか。

❷ 八戸酒類株式会社

1786年創業、八戸中心街に唯一残る酒蔵。「八鶴」、五戸工場の「如空」の２銘柄の老舗地酒蔵。八日町側の旧事務所は国の登録有形文化財に指定されていて、新しく販売所がオープン予定です。現在はコロナ禍で休止中ですが、事前予約制で蔵の見学もできます。

□八戸市八日町１
□TEL　0178-43-0010

❸ コミュニティ放送局 BeFM&コワーキングカフェ「エスタシオン」

八戸地域の情報を発信するラジオ局BeFMが、八日町から番町に移転し、4月にオープン予定。3月には１階にコワーキングカフェ「エスタシオン」もオープンし、くつろぎの場や新たなコミュニティ共有の場所となります。美術鑑賞後の休憩にもどうぞ！

□八戸市番町22-1 番町NDビル
□TEL　0178-72-3939
□時間　10:00～19:00（予定）
□定休日　不定休
BeFM_hachinohe

❹ 安藤昌益資料館

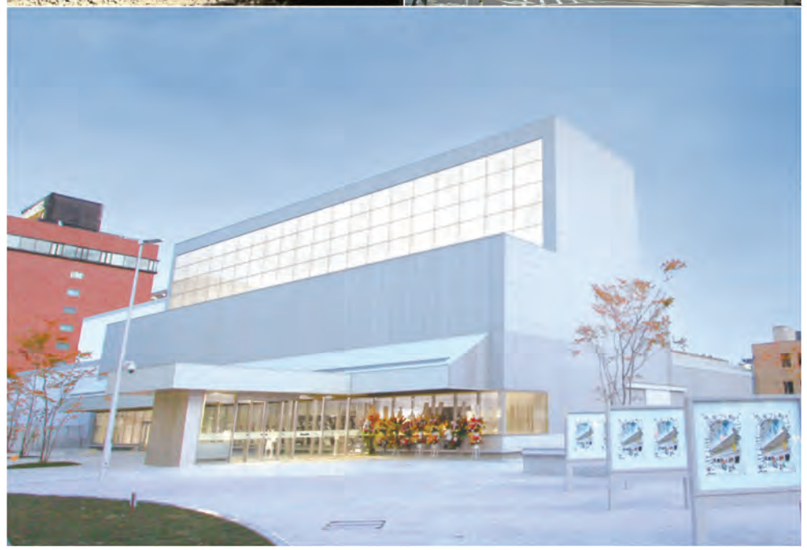
江戸時代中期、十三日町で町医者をしながら、思想家として「自然と人間とが調和する社会」を目指した安藤昌益は、世界最初のエコロジストと呼ばれています。昌益の活動を伝える資料が展示されています。

□八戸市八日町３
□TEL　090-2886-8109
□時間　11:00～16:00
□休館日　月・火・水曜日、年末年始、お盆

❺ 三浦哲郎ゆかりの地

八戸市出身の芥川賞作家・三浦哲郎（てつお）さんは現在の三日町さくら野百貨店辺りの丸三呉服店で誕生しました。三浦作品の舞台には八戸市が多く登場し、中心街には三浦哲郎さんゆかりの地が多くあります。

（a.三浦哲郎文学碑/ b.「しづ女の生涯」ゆかりの地/ c.「白夜を旅する人々」ゆかりの通り/ d.「おりえんたる・ばらだいす」ゆかりの地/ e. 三浦哲郎生誕の碑/ f.「ブレックファースト」ゆかりの地/ g. 下宿場所・「笹舟日記」ゆかりの地）



２０２１年11月。
八戸市美術館がリニューアルオープンし、
市庁前ロータリーの風景も大きく変わりました。
ロータリーにどっしりと佇む
コウヤマキの木は、樹齢約３００年。
長い間市民に親しまれ、その変遷を見守ってきました。
市庁前のこのエリアには、
市民にとって大事な役割を持つ施設が配置されてきました。
ある時は知識や情報の源として。
ある時は市民の安全・安心を守る要として。
そして、現在はアートの拠点として。
これから、この場所で
アートによる新しい活動が生まれていきます。

〈左上〉旧八戸市立図書館【1929年-1962年】　旧八戸小学校講堂を図書館として利用したもので、八戸市の誕生に伴い、町立図書館から改名。場所は現在のロータリー辺りにあった。建物は現在櫛引八幡宮に移築され「明治記念館」となっている。その後、堀端町から堤町へ、そして現在の糠塚へと移転した。（提供：八戸市立図書館）
〈右上〉旧八戸消防署【1968年-2011年】　現在の青森銀行八戸支店付近に位置し、ここから消防車や救急車が出動していた。現在は田向地区に移転。2001年まで八戸警察署が隣接していた。
〈下〉八戸市美術館【2021年-】　旧青森銀行・旧美術館のエリア付近に位置する。美術館前には大きな広場があり、歩道も広く整備され歩きやすくなった。

2021年度

アーティスト・イン・レジデンス公募プロジェクト

公募型のアーティスト・イン・レジデンス（AIR）を5年ぶりに再開しました。このコロナ禍で、アーティストの感じ得た八戸のおもしろさを、プロジェクトを通し、いかに市民のみなさんと共有できるかを模索しながら、活動を進めました。

はっちのアーティスト・イン・レジデンス とは

まちと関わりながら八戸の資源を生かしたプロジェクトを実施するアーティストの支援をしています。八戸のまち・人・生活文化と交わりながら、まちに活力や発見・感動・元気を生み出すことが、プロジェクトの目的です。

project 1

たくさん「市」があるのはなぜ!?
八戸に根付く「市」の文化にせまる!

八戸の市文化にふれる旅

ヨシダミナコ

八戸の「市（いち）」と言うと、全国有数の規模を誇る館鼻岸壁朝市や、八戸の新鮮な魚介の朝ごはんが食べられる陸奥湊駅前朝市が有名ですが、実はそれ以外にもたくさんの「市」が市内各所で開催されています。

大体のものがスーパーで手に入るにも関わらず、なぜ八戸市民はわざわざ「市」に出向くのでしょうか。新鮮なものが手に入るから？安いから？市の雰囲気が好きだから？市に会いたい人がいるから？

そんな疑問を感じながら、写真家ヨシダミナコが八戸の「市」文化についてリサーチをし、「市図鑑」を作りました。

「市」のリサーチ

市内13か所の約20店、約30人の市に関わる方にお話を聞き、大きな市から地域住人に愛される小さな市まで「八戸の市」を1冊の図鑑にまとめました。

オープンアトリエ

オープンアトリエでは「市」情報や「市」にまつわる思い出を集め、図鑑に掲載する八戸のイラストを市民のみなさんと一緒に描きました。

市民のみなさんが描いた図鑑の挿絵

八戸の主な朝市・夕暮れ市

- **館鼻岸壁朝市**
  日時：3月中旬～12月 / 日曜日 / 夜明け-9:00
  場所：館鼻岸壁
- **陸奥湊駅前朝市**
  日時：通年 / 月～土曜日 /3:00-12:00
  場所：陸奥湊駅前
- **街&丘の朝市**
  日時：4月～12月頃　[月～金曜日] 4:30-7:00
  [日曜日・祝日] 4:30-7:30
  場所：グランドサンピア八戸 正面玄関前
- **八戸ニュータウン朝市**
  日時：4月上旬～11月下旬 / 土曜日 /4:00-7:00
  場所：グランドサンピア八戸 正面玄関前
- **三八城山朝市**
  日時：4月上旬～11月頃 / 日曜日 /5:00-7:30
  場所：三八城神社境内
- **八戸うみねこ朝市**
  日時：通年 / 土曜日 / 夜明け-8:00
  場所：ライジング江陽大駐車場
- **湊山手通り朝市**
  日時：3月中旬～12月頃 / 日曜日 /4:00-7:30
  場所：湊山手通り（陸奥湊駅南口）
- **八戸駅前朝市**
  日時：4月中旬～11月頃 / 日曜日 /4:00-6:10
  場所：八戸駅前バスターミナル
- **まつりんぐ広場夕暮れ市**
  日時：3月～12月頃 / 木・土曜日 /14:00-17:00
  場所：長者まつりんぐ広場

このほかにも、たくさんの「市」が市内のあちこちで開かれています。

「八戸の市文化をリサーチ」するという、これまで自分が写真家として重ねてきた仕事とは全く違ったものに挑戦することができ、これからの自身の活動に何か一つの新しい可能性を感じています。

市をめぐって感じたことは、どんな市でも市の醍醐味である対面販売の魅力を感じることができ、私自身、食材の知識が広がって、よい商品と楽しい人々と出会える喜びがありました。また、市にはそれぞれのコミュニティがあり、それが地域と人々を繋ぐ大切な要となっていることが印象的でした。

今回のリサーチでは、一人の市のお母さんに密着し、市商人としての40年の歴史をじっくりと聞くことができ、八戸の市文化の歴史をも感じられたように思います。

プロジェクトの成果物である「市図鑑」は、関わってくださった方々一人一人の顔を思い出しながら制作しました。

八戸の市で出会うことのできた全ての方々に愛と感謝を込めて、私の「八戸の市文化にふれる旅」を締めくくりたいと思います。

ヨシダミナコ

project 2

えんぶりの衣装や舞に込められた
人々の祈りや暮らしをさぐる!

えんぶりえぼし、烏ぶりすり

杉原信幸 × 中村綾花

国の重要無形民俗文化財に指定されている、八戸の代表的な民俗芸能「えんぶり」。えんぶりがこれまでどんな歴史を辿り、現在の形になったのか、その起こりや変遷などをリサーチし、えんぶりにまつわる作品を制作しました。

衣装についてリサーチ

えんぶり衣装の歴史や現状について、制作者の方からお話をうかがいました。

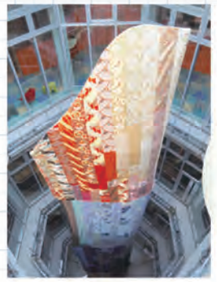
烏帽子制作者　瀧澤明久 さん

烏帽子は昔は木で作られていた!?

現在は和紙で作っている「ながえんぶり」の牡丹の花ですが、昔は経木（きょうぎ）で作っていたんですよ！修理で烏帽子を預かると、使っている素材も各組さまざま。えぼしの芯に「まさ板」を使っていたり、ボール紙を使っているものも。その時代や状況で調達できる材料を工夫して使っていたようです。

ながえんぶりの烏帽子

オープンアトリエ & 刺し子ワークショップ



この土地のかつての生活様式から新たに発想し、樹皮と鮭皮で作った烏帽子風作品

市民のみなさんが提供してくれた着物で作品を制作しました。針仕事が得意な方が多く、みなさん声をかけてくれ、刺し子のワークショップには多くの方が立ち寄ってくれました。八戸の昔の生活や着物にまつわるお話・思い出などをうかがいながら、市民のみなさんの手で作品が彩られていきました。

懐かしいな～。昔は作らないと何もない時代だったから、何でも自分で作ったよ。母の作業を見よう見まねで、切れ端を集めて「袖なし」や「ちゃんちゃんこ」を縫ったんだ。

昔、お盆の頃、お墓参りに振袖を着ていく風習があったから、お盆はとても嬉しかった思い出。ご先祖さまに盛装をして会いにいく、みたいな意味合いだったのかもしれないわね。

つまごの材料が手に入らない!?

つまご作りで使う藁には長さが必要なのですが、八戸近郊の藁は短くて粘りがなく、固いんです。関東の藁は長く、扱いやすいので関東から取り寄せて制作しているんですよ。

つまご

つまご制作者 石鉢勝憲 さん

数あるえんぶり組の中でもお囃子が有名な福田上えんぶり組の練習が印象的でした。真剣な大人たちの素晴らしいお囃子の響きに包まれて練習をする子どもたちはとても幸せだと感じました。

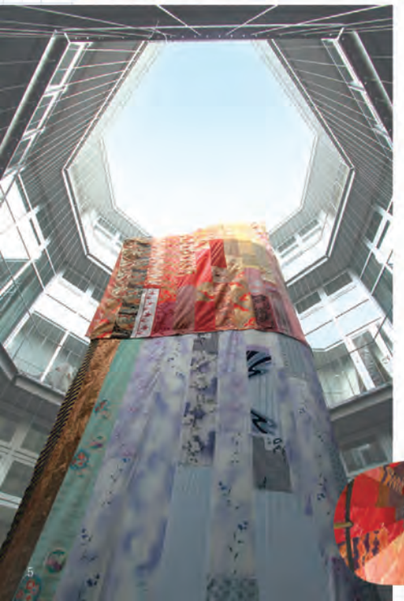
また、つまご用の藁を現在は関東から取り寄せているというお話にはびっくり。昔は食料を得ることと同時に藁も材料として大切な存在でしたが、現代では生活する中での必要性がなくなり手に入りにくくなっています。当時は生活と祭具が密接に関わり合っていたことを深く考えさせられました。

そのほかにも、八戸周辺の縄文文化や民俗のリサーチに博物館や資料館を巡るのがとても興味深く、おもしろかったです。今回の滞在で、八戸の文化と土地がとても好きになりました。

作品で使用する着物を提供してくださった方、刺し子のワークショップに参加された方など、多くの市民のみなさんが関わってくださり感謝しています。

えんぶりが開催される時期に、また八戸を訪れたいと思います。

杉原信幸 × 中村綾花



はっちの中庭を貫くような高さ 19mの烏帽子風作品
中に入って見上げると日光が差し込み幻想的

未来を創る
課題解決コラボプロジェクト

未来を創る課題解決コラボプロジェクト とは

市民や団体等とはっちが、協働で地域や社会が抱える課題の解決へ向けた取り組みを行うプロジェクトです。2021 年度は「つながり」をテーマとしたプロジェクト案およびプロジェクトを一緒に実施するパートナーを募集し、２件のプロジェクトを実施しました。

Café854 × Cdm8 事業

新しく結成した子育て世代のチームと協働で、地域の高等学校・高等支援学校と連携し、パンの新商品開発やパッケージの制作などを行うことで、子育て世代の中心街での居場所づくりや人材育成を目指したプロジェクト「Café854（ハチコジ） × Cdm8（コドモエイト）事業」。2月には、中心街でカフェを営み、キッズスペースも備えているCafé D.Cha（ディーチャ）さんともコラボレーションがスタートしました。パンのパッケージには、公募した作品の中からイラストを趣味にしている方の作品を採用し、来年度には販売も実施する予定です。

社会につながるコミュニティ「Drop in」事業

プロボノ・インターン事業団体「Drop（ドロップ） in（イン）」と協働で、不登校の中・高校生を対象とした、社会とつながるきっかけ作りを目的としたプロジェクト。就学年齢の若者たちに、プログラミングや映像の講座で知識やスキルを身につけてもらい、それを活かす場所や機会を提供することで、学校以外の場所で人や社会とつながるきっかけを作り、「役割」を持つことで社会から孤立させないコミュニティ作りを目指しています。

週２回程度の講座を実施し、参加した若者がプログラミングや映像制作のスキルを身につけたほか、実施者以外にも動画講師の協力や仕事の依頼の申し出など、プロジェクトに賛同してくれる方も現れました。

どちらの事業も継続して実施予定。
引き続きはっちもお手伝いしていきます！

こどもはっち
kodomo hacchi

八戸市から委託を受け、支援センター「こどもはっち」を運営している「NPO法人はちのへ未来ネット」。市の受託業務のほか、独自企画にも積極的に取り組んでいます。2021年度に実施した２企画のレポートをお届けします。

こどもはっち
9:30〜16:30
毎月第２火曜日（祝日の場合その翌日）年末年始
100 円（未就学児は無料）☎0178-22-5822
https://kodomohacchi.net

八戸こども宅食 おすそわけ便
in こどもはっち

月に一度、子育て家庭を対象に、子どもたちのためにご支援いただいた食品や生活用品などを配布しています。

元々、子育て支援として、みんなで食事や工作をするイベントなどを行っていましたが、新型コロナの影響で集まれなくなってしまったので「おすそわけ便」を始めました。

昨秋に県の社会福祉協議会さんのネットワーク作りのおかげで、こども宅食の拠点が今では市内10か所ほどに広まりました。支援してくださる企業・団体・個人も増え、お米やお菓子などの食品、衛生用品などが集まるようになり、月に1回の頻度で開催できるようになりました。公的な助成金も駆使して、今では１回に約60家庭に食料配布をしています。

子どものいる家庭、子育て世代への支援です。毎日大変なパパ・ママたちに、積極的に活用していただきたいです。

ギビングツリー
〜プレゼントの木〜

子どもたちのリクエストに応えて、クリスマスプレゼントを贈る交流企画「ギビングツリー」。今回もたくさんの子どもたちの笑顔を見ることができました。

子どもたちが、クリスマスプレゼントに欲しいものを書いた手作りのオーナメントをツリーに吊るし、プレゼントをしたい人がそのオーナメントを見て選び、メッセージを添えてプレゼントを用意する「ギビングツリー」の企画は今回で2回目。2020年は120枚、そして今回は377枚のオーナメントが集まり、嬉しいことに2年連続で全ての子どもたちにプレゼントが届きました！

はちのへ未来ネットは、子どもと親が安心して幸せに暮らせるよう、これからも地域ぐるみで子育て世代への支援に取り組んでいきます。

えんぶりモチーフを探そう！
えんぶりのある風景

八戸を表す時に使われるモチーフに、イカ・うみねこ・八幡馬などがあります。
「えんぶり」もその一つで、市内のあちらこちらで八戸の PR に使われています。
市内にある、えんぶりモチーフを探してみよう！

中心市街地付近のえんぶりモチーフたち

商工会館のステンドグラス

八日町歩道のタイル

柏崎交差点のガードレール

十三日町の銅像

長者山新羅神社の御朱印・お守り・絵馬

荒町「城屋」さんの看板とお菓子

春を呼ぶ祭り「えんぶり」。
新型コロナウイルスの影響で２年連続の中止となってしまいました。

あちこちからお囃子が聞こえてくるのが八戸の２月の風物詩。
来年こそは、
太夫たちの力強い舞、子どもたちの元気な声に出会えることを願って。

春になって暖かくなったら、
ぜひえんぶりモチーフを見つけてみてくださいね！

八戸まちづくり人

今日も
中心街で頑張る
あのひと

File.6

MOTOMURA Shunsuke

BOOK SELLER BAR
AND BOOKS

本村 春介さん

八戸市十六日町にあるビルの一角に、本と料理とお酒が楽しめるブックバー「AND BOOKS」があります。店主の本村春介さんにお話をうかがいました。

「本」村さんの「ブック」バーが位置するのは、十六日町の「本多」ビル（「本田」ビルではなく、「本多」ビル。ここ重要です！）。名前にもビルにも「本」が入り、なんだか縁を感じますね。「北東北初のブックバー」だそうです。

以前はサラリーマンをしていた本村さんですが、「人生は一度きり。後悔したくない！」と、2017年秋にブックバー開店を決意します。そして、8か月後の翌年7月に「AND BOOKS」がオープンしました。

内装のほとんどをDIYしたという店内はとてもスタイリッシュ。本は読むだけでなく、デザインや質感も好きだとおっしゃる本村さんの後ろには、ディスプレイされた本たちがずらり。開店当初は2000冊ほどだった本は、現在は約4000冊に！

カウンターに座っておしゃべりする方もいれば、映画上映の待ち時間に立ち寄る方もいます。窓側の席に座る方には読書に集中できるようにとそっとしておく心遣いも。

コロナ禍でも常連さんに支えられながら営業を続け、最近では古物商許可を取得しました。実は若い頃から古本屋さんになるのが夢だったという本村さん。閲覧のみだった店内の本の販売も可能になり、おうちに眠る本たちの買い取りもスタートさせました。

そして、3周年を迎えた2021年7月、店舗隣の空きスペースも借り上げて、「AND BOOKS分室」をオープン。部屋の壁一面の蔵書には圧倒されます。

分室ではアコースティックライブやイラストの展示、トークイベントなどを開催したり、イベントがない日には静かに読書に集中できるスペースとして活用しています。分室に設置している本たちは、食や音楽、建築など、ジャンルはさまざまですが、隣のジャンルへとゆる〜くつながっていく配置になっていて、背表紙を眺めているだけでも楽しめます。

AND BOOKSを「安堵」できる場所、お客さんにとって落ち着ける空間にしたいと本村さん。お客さんそれぞれが「仲間と本」「お酒と本」「ひとり時間と本」など、思い思いに本と関わる時間を持ってほしい、と語ります。

あなたも「AND BOOKS」に「○○と本」を見つけに行ってみませんか？新しい出会いがあるかもしれません。

店内は壁一面に本がびっしり。ゆっくり読書ができる窓辺の席も人気です。

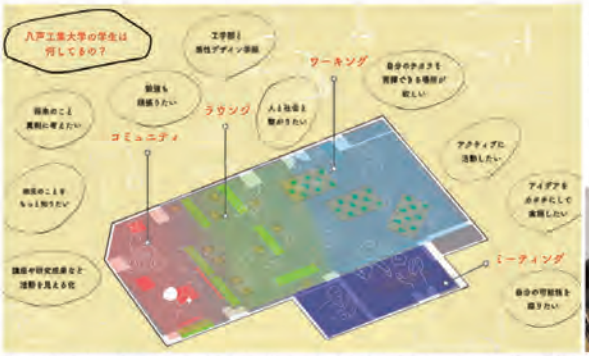
AND BOOKS
八戸市十六日町 48-3　本多ビル2階
17:30 〜 24:00
月曜日・火曜日
090-2275-3791
and_books2018

street information まちなか情報

■中心街に新しい活動拠点！八戸工業大学サテライトキャンパス開設！

2021年秋の八戸市美術館の開館により、中心街に新しい景色が生まれました。その美術館の目の前に、この春、八戸工業大学の新しい活動拠点がオープンします。同学の公開講座や学生の活動発表の場所として開設される八戸工業大学×(株)田名部組はちのへ「まち」プロジェクト「番町サテライトキャンパス」は、創生デザイン学科の宇野あずさ助教のもと、学生たちも一緒に室内の空間デザインに携わっています。

これまでは「マチナカ公開講座」と称して、はっちやブックセンターなど「マチナカ」を会場に、市民に向けて大学の活動を開いてきました。春からは、このサテライトキャンパスを拠点として、公開講座をはじめ、大学のイベントや地域交流も行っていくそうです。ここで活き活きと活動する学生たちの姿も、中心街の新しい景色として活気を生んでくれそうですね。



サテライトは「コミュニティ」「ラウンジ」「ミーティング」「ワーキング」に分けられ、大学・企業・まちが一体となって社会課題を考える知のプラットホームを目指します。

はっち topic はっちのおすすめ情報

■カネイリミュージアムショップ×はっち オリジナル八幡馬販売中

はっち 10 周年を記念して、はっち1階のカネイリミュージアムショップとコラボレーションし、オリジナル八幡馬を制作しました。

はっち正面玄関のシンボルオブジェ「八幡馬列柱」の3色を元に、八幡馬の基本である赤色、黒色、木目を組み合わせたデザインとなっています。数量限定でカネイリミュージアムショップで販売中です。八戸のお土産にどうぞ！（1体 2,500 円 / 税込）

八戸ポータルミュージアム「はっち」は
地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すところ。
まちづくり、文化芸術、観光、ものづくり、子育てを軸とした活動を
サポートする多様な設備を備えています。

八戸ポータルミュージアム はっち
〒031-0032 青森県八戸市三日町 11-1　TEL | 0178-22-8228　FAX | 0178-22-8808
E-mail | hacchi@city.hachinohe.aomori.jp　WEB | https://hacchi.jp
開館時間 | 9:00〜21:00　※こどもはっち 9:30〜16:30
休館日 | 毎月第 2 火曜日（祝日の場合その翌日）、12 月 31 日及び 1 月 1 日
Facebook | @hacchi8　Twitter | @hacchi_staff　Instagram | hacchi_hachinohe

［交通のご案内］
バ　ス／八戸駅東口からバス八戸市中心街方面行き［約25分］
　　八戸中心街ターミナル（八日町）下車すぐ
鉄　道／八戸駅からJR八戸線本八戸駅下車［徒歩約10分］
航空機／三沢空港から八戸市内シャトルバス［約55分］
フェリー／八戸港フェリーターミナルから車［約15分］
車　／八戸駅から車［約20分］
※一般駐車場はございません。周辺の有料駐車場をご利用ください。

はっちリレーショナルプレス［はちみつ］vol.39
発行：八戸市 まちづくり文化スポーツ部 八戸ポータルミュージアム
発行月：2022年3月　部数：16,000部　印刷費：1部あたり 12.1円